

# 出張医学教育FD(松本市立病院)

【日時】 平成26年11月19日 8時00分～ 8時30分

【場所】 松本市立病院

【参加人数】 25名

## 【内容】

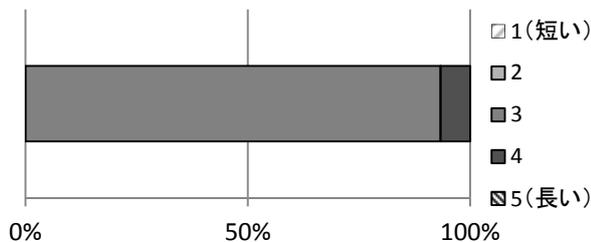
○卒前クリニカルクラークシップの現状

○信州大学における今後の臨床実習

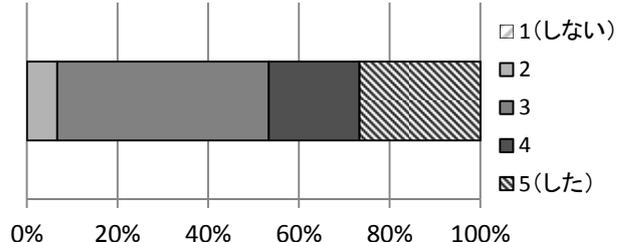
- ・150通りの選択肢からなる参加型臨床実習について
- ・学生が行うことのできる医行為について
- ・臨床実習の指導医

○患者の同意と事故補償

FDの開催時間はいかがでしたか。



FDはニーズにマッチしましたか。



## 参加者の意見

FDで分かったこと	FDで疑問が残ったこと	ご意見
これからの医師養成のための基礎教育の変化。学生の頃からの臨床研修の有用性。	実際の医療行為をどこまでさせて良いか。	今までも学生研修には貢献しているつもりですが、当院は大学からも近い、優秀な医師も多いと思っています。今後も学生の受け入れについて、当院の医療の質が高くなるという価値もありますが、特に内科医師の増を(違う角度から)配慮していただけたら幸いです。
信州大の医療教育の始まりの遅さ。	大学から若い医師が来ないのに、学生が来るのは理解できない。やはり医師を率先して派遣すべきではないか。	学生保険の担保されている内容について教えてほしい。
日本の医学教育の現状。大学でのおおまかな教育内容。	学生のできる医行為。	教育の観点より医師の派遣をお願いした。
学生には臨床に則した実習が必要であり、市中病院の実習が良いことは理解した。	実習中の中間試験で何の領域をどのように問うものなのか？	一か月ごとの移動は短すぎる。
医学教育における臨床の重要性。	具体的なプログラムは、100%病院に託されるのでしょうか。	関連病院で科ごとで行うのも良いが、中規模病院ならではの横割り、垣根の低さ、連携の良さがあるので、もう少し幅広く関連病院の実習を計画してもいいのではないかと。例えば、整形が主だが外科系全般、総診が主だが内科系全般、など。また、もう少し特に学生実習時に大学から人材派遣の協力などがあるとありがたいと思います。
医学ではなく、医療に重点が移ってきており、良い方向に向かっていると思う。		大学側が求める実習での指導方針に具体性が乏しいと思います。
世界基準の教育の必要性と実践。		学生アンケートはあるのでしょうか→教育・指導方法の改善にフィードバックしていただけると幸いです。
実習体制が変わるということ。		
日本の医学教育も世界標準を目指す方向にあること。参加型実習の重要性。		
臨床実習の重視。世界標準。		
目的・方法等が理解できました。		